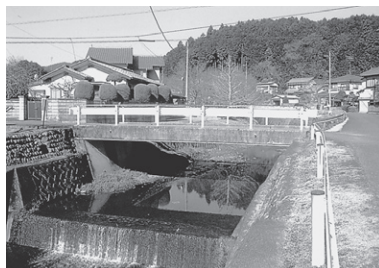




滝ノ入冠水橋
昭和47年9月

毛呂川にかかる冠水橋（現在も同様の名称で残存）の写真です。その名のとおり、増水時には、橋そのものが水をかぶり障害物を下流へと流す機能を果たしていました。現在は、「あいあい園」の下流にかかる橋の下に当時の面影が残されています。

現在の風景



●お知らせ●

長い間、広報もろやまの裏表紙の顔として続けさせていただいている毛呂山思い出写真館は、掲載可能な写真が不足しているため、今後の掲載継続が難しくなっています。昭和60年代ごろまでの昔の写真が皆さんの家庭にも眠っていませんか？ 写真を貸していただける方は、役場秘書広報課広報広聴係☎(295)2112内線332までご連絡ください。

徒然歳時記

春眠

「春眠、暁を覚えず。」お馴染みのこの言葉は、「春の眠りは心地よいので、朝が来たことに気づかず寝過ごしてしまう」という使われ方が一般的です。でも、実はもうひとつの解釈があります。「春は、冬に比べて日の出の時刻が早まるので、日の出に気づかなくなってしまった」という解釈です。この言葉を始めて使った詩人、孟浩然がどちらの意味で使ったかは定かではありませんが、いずれにせよ、春は眠気を誘う季節です。



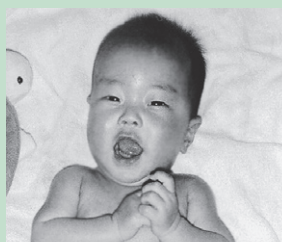
春に眠くなる最も大きな原因は、新陳代謝が活発になることにより、ビタミンB1が不足しがちになるためであるといわれています。また、入学や入社、異動などで環境が大きく変化することも、疲れや眠気の原因になるようです。

では、朝すっきり目覚めるためにはどうすればよいのでしょうか。それには、まず、日没後は出来るだけ強い光を避けることです。脳の中で作られるメラトニンというホルモンは、深い眠りをもたらす物質ですが、光を感じると分泌が抑えられてしまうといわれています。寝る前に、テレビや携帯電話、パソコンの画面を見ることはなるべく控えましょう。

また、朝に自分なりの楽しみを用意しておくことも目覚めやすくなる効果があります。好きな趣味を朝にする、お気に入りの服を着る、朝ごはん好きなものを食べる、花を見ながら散歩するなどです。皆さんもぜひ、小さな工夫を取り入れて、眠い春の朝を楽しく過ごしてみてください。

【編】 3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。町では、被災された皆さんを支援するため、義援金箱を設置しています。一人ひとりの力は小さくても、皆で力を合わせれば大きな力になる。そう信じています。ぜひ、皆さんの善意をお寄せください。(Y)

わがやのアイドル



石井 楓大くん
(6か月)

裸でも元気いっぱいな楓大！最近では電車やバイクの本を見せると大喜び。

大きくなったらみんなでバイクツーリングしたいね。



大野 夢奈ちゃん
(2歳9か月)
華奈ちゃん
(10か月)

ゆなはおしゃべりが上手になりました。ゆながかなと遊んでくれるのでママは助かっています。

やりすぎな時もありますけどね(笑)

■ 秘書広報課では「わがやのアイドル」を募集中です。
☎・☎ 役場秘書広報課☎(295)2112内線332

人口 36,353人 (-90人)
【男 18,100人 (-49人) 女 18,253人 (-41人)】
世帯 15,695戸 (-9戸)
※平成23年4月1日現在(カッコ)内は前月比

口広報もろやまは、役場ホール、両公民館、図書館、保健センター、教育センター、総合公園体育館、歴史民俗資料館、福祉会館に置いてあります。